

平成25年度第3回小金井市地下水保全会議会議録

- 1 開催日 平成26年3月28日(金)
- 2 時間 午後3時00分から午後3時58分まで
- 3 場所 前原暫定集会施設B会議室
- 4 議題 (1) 委員の委嘱について
(2) 前回会議録の確認について
(3) 小金井市立小中学校運動場芝生整備事業に伴う揚水施設の設置について
(4) ボーリングデータについて
(5) その他
- 5 出席者 (1) 委員
会 長 小倉 紀雄
副会長 山田 啓一
委 員 土屋 十圀
(2) 事務局員
環境部長 中谷 行男
環境政策課長 石原 弘一
環境係長 碓井 紳介
環境係主任 中澤 秀和
環境係 板本 絹代
(株)サンワコン 桶谷 治寛
- 6 傍聴者 1名

平成25年度第3回小金井市地下水保全会議議録

小倉会長 それでは、本日の議事、議題が幾つかございますので、順次、進めていきたいと思えます。

 議題の1、委員の委嘱ということで、お願いします。

中澤主任 本日付をもちまして、皆様のお手元に委嘱状を交付させていただいております。本来ですと、小金井市長から皆様にお願いとお願いという形でさせていただくところでございますが、市長は本日、業務多忙ということで、皆様によろしくという形ですので、こちらのほうをもちまして委嘱させていただきますので、よろしくお願いたします。

小倉会長 わかりました。

 それでは、よろしくお願いたします。

 それでは、最初は前回の議事録の確認ですけれども、これは前もってお送りいただいておりますので、何かございましたでしょうか。何か指摘事項があれば事務局のほうに連絡していただくということで、承認という形をとらせていただきます。

石原課長 お願いします。

 すみません、前回の会議録の中で積み残しになっていた部分のご報告がありますので、そちらから報告をさせていただきます。

小倉会長 ごめんなさい、今日の3番目、芝生整備事業、3番ですね、今日の議題。そうじゃない？

石原課長 前回の会議録の確認に絡めて、前回の会議の中で保留になっていた部分の経過報告をさせていただきます。

中澤主任 まず、会議録の中から、前回の課題という形でいただいている部分がございます。

 こちら、1点目が、防災の、災害の井戸に関しまして、数の目標でもあるのかという形でご意見をいただいていたんですが、担当課に確認しましたところ、特に目標の数値は設定していないと。こちらのほうは、あくまで市民の方々に、災害用で井戸をつくりたいというお話をいただいた際に、水質検査のような形でご協力させていただくかわりに、災害用という形で指定をさせていただいているというご説明

をさせていただいているというところで、特段の目標値は設定はしていないというところがございます。

2点目につきましては、下水道の関係で、野川の合流式のスクリーンの設置につきまして、環境報告書のほうの中から、野川7カ所で設置をしているというところで、こちらのほうで、何か検査とか検証とかが行われているのかというご質問がございました。

こちらのほうにつきまして担当課に確認しましたところ、月一度程度の点検と、雨天等で天候が悪かった際の事後の関係につきまして点検をしているということでございます。

改めまして、合流式の下水道の設置スクリーンの設置後につきましては、設置前と設置後の検証事業というものを、平成26年度に予定している、予算を計上しているということでございます。

3点目でございます。前回の会議の際にご提出させていただいた、児童発達支援センター「きらり」のボーリングデータにつきまして、資料の中で、ボーリングデータ一覧というものを、お配りしているものがございます。そちらをごらんいただいてよろしいでしょうか。

今回、一覧の中で、下欄で参考という形でさせていただいている「きらり」の資料につきまして、前回、私どもで担当の建築営繕課に確認しましたところ、直接基礎という形で基礎工法の話をしていただいたところであるんですが、こちらは杭を打っているというところで、建築営繕の部門との調整がちょっとうまくいかずに、直接基礎という形で提出してしまいまして、まことに申しわけございませんでした。

こちらの杭の資料につきましては、本日、お配りさせていただいておりますA3の2枚刷りの資料、こちらのほうで、杭状図、杭の位置図、本数が確認できるような形になってございます。

今後、このようなことがないように、建築営繕の部門とは綿密な調整を行いまして、市のこういった地下水に関係する工事等につきましての資料提供を、綿密にこのような形でさせていただきますので、よろしく願いいたします。

申しわけありませんでした。

事務局からは、会議録におきましての委員皆様からのご意見、ご質問につきましては、以上となります。

小倉会長 ありがとうございます。補足で3点、ご説明がございました。

山田副会長 ちょっと追加でいいですか。2番目の下水道のスクリーンと多少関係があるんですが、平成16年ぐらいから下水道の法律が一部改正になって、合流改善事業ということで、流量の測定を小金井でもやっている。そのデータは、私、下水のほうのをいただいていますけれども、6つある中の1つの一番下流のあたりですか、で流量をはかっている、そのデータが現在もとられているというのがあります。

私も、自主研究でその流量と雨との関係でどういうふうになっているか、間接的に雨水浸透の効果を何かできないかということで、今、ちょっとチェックしているところです。

小倉会長 はい、わかりました。そういう形で解析をしていただくと、役に立つデータになると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

よろしいでしょうか。補足のボーリング、A3の2枚は特によろしいですかね。

石原課長 これについては、今回、初めて杭状図は初めてお出ししたということですので、ボーリングデータのところで、順次やっていく中でご意見など賜ればと思います。

小倉会長 わかりました。それでは、ありがとうございます。

それでは、前回の会議録は承認ということで、本日の議題に入ります。

3番目の小金井市立小中学校運動場芝生整備事業に伴う揚水施設の設置についてということで、ご説明をお願いいたします。

中澤主任 資料の2番でございます。小金井市立小中学校運動場芝生整備事業に伴う揚水施設の設置について、1枚の資料でございます。

こちらは、小金井市立南中学校におきまして、従来から行われております芝生整備事業の一環で、本年、平成26年7月あたりで、こちらのほうの揚水施設を設置するという、担当の環境教育の庶務課から資料の提出が行われました。

こちらを簡単に説明をさせていただきます。2番、揚水施設の概要ということで、吐水口の断面積6平方センチメートル程度、さく井の深さが80メートルの予定でございます。ストレーナーの位置が39メートルから73メートル、揚水出力2.2キロワット以下、揚水量

は下表によるということで、3番の揚水量でございます。こちらにつきましても、あくまで予定ということでございますが、合計で1,056立米という形で予定をしているところです。

4番といたしまして、参考数値で、平成25年度の、今まで芝生整備事業におかれまして、こちらのほうで井戸を設置いたしました数値を参考で記載させていただいております。

裏面に移りまして、こちらで、全体の南中学校の校庭の中でさく井場所の配置図を記載させていただいております。

市内14校のうち、こちらは6カ所目というところかと思いますが、14カ所のうち9カ所程度、目標として掲げ、こちらの芝生化の整備事業を予定しているということ、その場所ということでございます。

説明は簡単ですが、以上です。

小倉会長 南中学校の芝生の設置ということで、揚水量が書いてございます。校庭の周辺ですね、設置するということで。

山田副会長 これはメンテナンスは業者がやるんですけど。

小倉会長 どうでしょうか。

中澤主任 そちらのほうは業者で行うような形です。メンテナンスというか、井戸もということですよ。

山田副会長 実際に井戸を散水したりするのは。

中澤主任 散水のほうですか。

山田副会長 掘るのはもちろんそうでしょうけれども、その後の水のほうは。

石原課長 この南中学校のことでは確認していないんですけども、従前の芝生化の説明の中で説明させていただいているお話の中では、スプリンクラーで自動的に時間になると散水する、雨が降ったときには散水を停止するような感知計もついているんで、そういう形でご説明させていただいておりますので、今回も同じ形式だというふうに推察しております。

小倉会長 これはよろしいですか。

6校目ということで、今後も、順次、設置される予定ということですね。

山田副会長 関係ないですけど、こういうのは非常用水源みたいなもので活用で

きないんですか。

小倉会長 そうですね。

山田副会長 そういうのは全く別な話として。

石原課長 費用面からで井戸という選択を行っている聞いております。

山田副会長 いやいや、例えば震災のときに、避難所で緊急で水がないときには一時転用するとか、何かそういうことができるのか、できないのか。

中澤主任 そういうところですよ。緊急時災害用ということですよ。

山田副会長 そうですね。先ほどの非常用の、お宅にお願いするというのももちろん大事だけれども、せっかくなつくた井戸で、もしできるんならば、どの程度、できるかどうかわからないけれども、市のほうも積極的にいろいろ工夫していますよというのを、皆さんにアピールするのが大事かと思うんですが。

石原課長 私ども、今回、そこまでの聞き取りをしていなかったもので、どの程度、水道などがストップしたときに活用できるのかというところは、おそらくポンプでくみ上げたりする形になると思うんですけれども、タンクのようなところに一時貯留を、そういった災害の想定などとした貯留とかをする機能とか、そういったものが備わっているのかどうなのかというところは、確認させていただきたいと思います。

小倉会長 はい。

山田副会長 全体的な姿勢として、豊かな水を市民の安全のためにもすごく利用する、そういう姿勢も大事だと思います。だから、そういうのをいろいろ、ネットワークを増やしてほしいと思います。

小倉会長 確認をしていただいて、今はスプリンクラーで自動的に時間が来ると散水するという仕組みになっているんで、そうでないときに、緊急用のときに利用可能かどうか、確かめていただければと思います。

それでは、ありがとうございました。

次、4番目のボーリングデータについて。これを順次、ご説明お願いいたします。

中澤主任 ボーリングデータ一覧という資料がございますので、そちらをごらんいただきますでしょうか。

こちらの1番、仮称せらび小金井ということで、こちらの新築工事の地盤調査の資料の提供がございました。住所地から申し上げますと、

小金井市貫井北町3丁目38番19号、敷地面積が2,529平米、建物階数が地上3階、主要用途がサービス付高齢者向け住宅、基礎工法が直接基礎という形でお話いただいております。

一覧のほうを大まかに先に進めてまいります。2番が、都立小金井特別支援学校改築工事。こちらの住所地が、小金井市の桜町2丁目1の14。敷地面積が8,590.08平米、建物階数が地上4階、地下1階、主要用途は特別支援学校。こちらのほうは、基礎工法が杭基礎という形になります。

3番で、仮称アーデル東小金井新築工事。住所地が、小金井市緑町2丁目3番地内、敷地が1,308.48平米。建物階数が地上5階、主要用途は共同住宅、基礎工法は直接基礎という形で、一応、いただいております。

こちらは、お配りしている小金井市管内図の中にそれぞれの場所を記載してございます。参考にさせていただければと思います。

それでは1番の仮称せらび小金井からお願いいたします。

小倉会長
石原課長

では、1番の仮称せらび小金井。

直接基礎なんですけれども、事業者のほうでボーリング調査を行ったということですので、その資料を提出していただきましたので、こちらのボーリングデータを皆さんに提供するというところが趣旨でございます。

小倉会長

はい。

直接基礎なので、直接、杭は打たないということで、地下水の流れに対しては、直接、あまり大きな影響はないかと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

土屋委員
小倉会長
石原課長

深さはどのぐらいになるんですか、直接基礎。

直接基礎の。

ボーリング調査の結果から、1.2メートルの直接基礎を想定しているということのようでございます。

9ページのところで、基礎に対する考察として、杭基礎にするか直接基礎にするかという検討が述べられてございまして、9ページの下の方に深度1.2メートル付近に支持させた場合を算定するという、2ページにわたって直接基礎の検討が入ってございまして、結局、直

接基礎を採用したということでございますので、この想定で工事が行われていると思います。

小倉会長 はい、いかがでしょうか。

建物、地上3階で、これ、もちろん屋上に降った雨は浸透という形をとるんですね。

石原課長 そうですね、ここは浸透禁止区域ではないです。

小倉会長 ではないですね。崖線はかなり北のほうですから。

石原課長 はい。

小倉会長 高齢者サービス、高齢者向けの住宅ということで。

これはよろしいですか。

土屋委員 屋上の雨水浸透はどういうふうに行われているか、わからないんですか。あくまでもボーリングだけのお話で。

小倉会長 ここはボーリングだけのことですね。

中澤主任 浸透施設の数につきましては、新設の集水ますのほうで2カ所設置される場所です。

小倉会長 2カ所。

土屋委員 屋上にためられたものはそのまま地下に浸透する。

石原課長 そうですね。

土屋委員 それは、市のほうでの行政指導みたいなのをしているんですか。

石原課長 下水道課のほうで配管を指導していますので、それに従って、やっております。

土屋委員 わかりました。

小倉会長 はい、それでは、次に移りたいと思います。

2番目、小金井特別支援学校改築工事。これは地上4階、地下1階、敷地面積が8,590平方メートルで、杭基礎ということになっています。これはボーリング柱状図がついて、資料としてあります。これについて、いかがでしょうか。

杭の深さはこれかな、どこまで。

中澤主任 先端が25メートルということになっていますね。

小倉会長 先端が？

中澤主任 先端レベルが25メートル。

小倉会長 25メートル。

中澤主任 はい。

小倉会長 先端が25メートルまで行くんですか。そんなに結構深い。

土屋委員 25メートルですか。先端部分、25.67メートル。

小倉会長 支持層レベルって書いてあります。24メートル。

土屋委員 ここはN値が浅いところの12メートルぐらいのところ硬いところがあって、また22メートルで硬いところがあって、さらに深い二十八、九メートルであって。今まで、ちょっとなかなかあまり見られない感じですよ。浅いところでもN値が高くなっている。

小倉会長 一時、そうですね。

土屋委員 深さ方向に、大体、礫層が出ている場合、N値が高くなるんだけど、だから、安全にということで深いところにしちゃったんですね。深い25メートル。

小倉会長 ああ。

土屋委員 N値が50台、出れば、普通は上の12メートル前後でいいんでしょうけれども。

山田副会長 これ、すぐ小さくなりますよね。浅い。

小倉会長 そうですね、ガクンと小さくなりますね。薄いんですね。

土屋委員 その後は、すぐにまたN値が小さくなっちゃうから、安全とったんでしょうね。

小倉会長 下のほうの支持層まで打つということなんですかね。

土屋委員 それで、25メートル。

小倉会長 25。

山田副会長 地盤がよくない。

土屋委員 全部、そうですね。

小倉会長 そうですね。

土屋委員 だから、今、おっしゃったように、浅いところでも礫層が比較的あるんですね、12メートル。深いところにも礫層が、だから2つ、礫層がある。

山田副会長 途中ですごくやわらかいんですね、N値がずっと小さくなって。

土屋委員 その間にシルトが入っていますから、礫層が少し。

山田副会長 このシルトもやわらかいシルト。全然出ていない。

土屋委員 今まではこういうところはなかったですよ。

小倉会長 そうですね、一度、N値が大きくなると、ずっと下まで大きくなって、その一番上の層に支持杭で、支持するのですよね。支持層、そこだったですね。だから、深いんですかね。

土屋委員 だから、深いところまで打って、すごく安全に深くしたんでしょうね。

 このボーリングデータを見ると、地下水は礫層のほうに、大体12メートルぐらいのところですかね、こういった記載をしているんだと思います。

山田副会長 これは仙川の北側でしたっけ。

小倉会長 北側ですね。北側で、小金井街道の西側ですね。

山田副会長 西側。

小倉会長 西側ですね。

 さっきの近くのせらび小金井のところは、近いのにそんなに下がってないですよ。

土屋委員 そうですね。

小倉会長 ちょっと土地が離れていると、こんなに違うんですね。

土屋委員 違うんだね。

小倉会長 これは改築で、今、支援学校は低いやつが建っているんですか。それを改築して、これだと4階建ての大きなものにするということなんですか。

中澤主任 元の施設の規模までは把握していませんが。

小倉会長 把握してない。

山田副会長 昔、これ、都立養護学校と言っていたやつですか。

中澤主任 さようでございます。

山田副会長 そうですか。

 そうか、今、名前が変わったから。

小倉会長 名前が変わって、単なる、だから、基礎、杭まで打ち直して、新たに4階建てにするのか、あるいは、そうかな。前はそんなに高くなかったのかな。高くなかった建物かもしれないですね。

石原課長 鉄筋で、ちょっと中まで入ったことないんで、3階程度まではいけるかなという建物。

小倉会長 ああ、そうですか。

石原課長 おそらく老朽化に伴って改築するという時期に来て、改築する事
だと思えます。

土屋委員 多分、今、耐震化、進めているんじゃないですかね。

小倉会長 そうか、耐震化もあって。

山田副会長 25メートルの基礎か、すごいね。

小倉会長 面積も大きいですよ。広い。

土屋委員 8,000。

小倉会長 8,000だもん、4階建てで。

土屋委員 都立の施設も、当然、雨水は浸透の施設ができますね。空間も含め
て。

石原課長 はい。

小倉会長 地下水の流れは、大体、西から東への流れですかね。だから、直接、
野川の崖線のほうまでの影響というのは、比較的少ないと考えてよろ
しいんですかね。離れていますからね。真ん中に中央線が走っている
し。

山田副会長 ただ、地下水が上がると、結構、南北方向に。

小倉会長 南北方向に流れもある。

山田副会長 そうそう、多分、滄浪泉園とかね。

小倉会長 ああ、そうか。

土屋委員 これは野川の流域じゃなくて、ここは。

山田副会長 仙川。

小倉会長 仙川。

土屋委員 仙川の上流になるんですよ。

小倉会長 仙川の上流になるんですか。

土屋委員 だから、流れとすると、仙川の上流に入ってくるわけですね。

山田副会長 ほっとくと三鷹のほうに行くんだけど。

土屋委員 ええ、野川のほうじゃなくて。

山田副会長 水が多いと。

土屋委員 だんだん仙川のほうに近づいていますからね、だから、こういう複
雑になっているのかもしれないですね。

小倉会長 ああ、地形、ボーリング？

よろしいですか。特殊というか、今までないような地質構造をして

いるので、ちょっと興味ある場所かもしれません。近隣がどうなっているのか。最初に説明のあったせらび小金井のところでは、それほど下のほうでN値が一度、小さくなるというのはなかったんですけども、ここではまた、ちょっとこれ、距離で言うと1キロも離れていないところでそんな構造が見られるので、こういうデータを集めておくと、後でいろいろ解析の際に役に立つかもしれませんね。

それでは、ありがとうございました。

3番目がアーデル東小金井新築工事ということで、これは何通りというの、北大通り。これは、直接基礎ですね。使用用途が共同住宅、地上5階で直接基礎で、規模は、5階で1,308平方メートル。それほど大きくはない。東小金井の駅の近くですね、緑町。

いかがでしょうか。

土屋委員
石原課長
小倉会長
土屋委員

民間のマンションですね。

そうです、はい。

いかがですか、よろしいですか、直接基礎ということで。

先ほどの都立支援学校は、地下水が7メートルぐらいで出てくるんですね。それに対して、ここ、7メートルだと何にも地下水がない。やや仙川の東のほうに近い。

礫まじり粘土のところにも地下水がないんですね。地下水面は確認してないのかな。

小倉会長
土屋委員

水位は入っていない。

15メートルやっていけば、礫まじり粘土ぐらいのところでも地下水が出てくると思うんですけどもね。記入漏れがあるのかもわからない。

小倉会長

観測していないのか、してあれば記載してもらおうということで、ちょっと確認できれば、どの辺に地下水があるのかですね。観測していなければ仕方がないです。

よろしいですか。直接基礎ということで、そんなに深く先端、基礎が入るわけではないと思いますので、大きな地下水の流れに対する影響はないと考えてよろしいかと思います。

それでは、先ほどの参考で、「きらり」のボーリングデータが、先ほどのA3の2枚であります。これは、杭基礎になるということで、

地上3階、梶野町。

石原課長 東小金井の駅の少し東側。

小倉会長 東側のところですか。

石原課長 東小金井の北口から徒歩5分ぐらい線路沿いに東に。

小倉会長 東に行ったところですか。

杭の長さが5メートル、5メートル、7メートル、これはそれほど深くないですね。

石原課長 いや。

小倉会長 違うのか。

石原課長 14メートル。

小倉会長 ここには杭の絵が描いてありますね、図が。そうですね。14メートル、15メートル、そうですね、N値が大きいところまで杭を打ち込んでいるということで、支持基盤。

土屋委員 これも地下水面があまり確認されてないですね。

小倉会長 確認されてないですね。

土屋委員 これも都立の施設ですか。

石原課長 いや、これは市の施設です。

土屋委員 市ですか。

石原課長 はい。

土屋委員 いわゆる礫層の上から粘土の端まで。

石原課長 前回のときに、もう少し何か詳しいのをお出ししたような、前回のときには、地下水位が9メートル前後というようなお話が出ているようなんですけども、そのときには地下水の記載がある資料を出したのですか？ すみません、今日はちょっと簡単な、杭のほうを主に出させていただいています。

小倉会長 そうですね。この右側の表のところに基礎とあって、杭長、種別ってありますね。P1、P2、P3、P4、杭の長さ、5メートルプラス7メートルというのは、これは足してということなのか。1枚目の右側の上の表がありますね。基礎と一番下の欄の符号があって、P1、P2、P3、その一番右側に杭の長さ、杭種別というのがあって、C種、A種、5メートルプラス7メートル、合計12ということ、そういうことを。

中澤主任 そうですね。

小倉会長 でいいんですか。杭の種類が違うのか。種類が違う。
5メートルにプラス7メートルということで、合計12メートルぐらいということですね。はい、わかりました。

土屋委員 管径、管の大きさも書いてあります。

小倉会長 そうですね。
これもよろしいですか。
前回は説明があったということで、ちょっと忘れてしまいましたけれども、これは了解で。
今まで、データが随分たまってきましたね。この委員会でやったのは、合計どのぐらい。トータルするとかなり、地図上に落とすとかなり。

石原課長 毎回3つぐらいとして、年に3回で。

小倉会長 9本、もう何年ぐらいになる？

石原課長 17年とか、その辺から始まったから。

小倉会長 ああ、そうか。
ここで議論しただけで、かなりの数の柱状図が得られているということですね。

石原課長 はい。

小倉会長 図面を詳細に見るとおもしろいですね。

土屋委員 学生に研究でもさせて。

小倉会長 そうですね。それと、あと、地下水の。

土屋委員 地質のデータを、浸透等、いろいろなことで使おうと思えばできますから、過去のデータを、全部、地質図みたいなのをつくって、地下水メモをつくれれば。ちょっと時期が違うかも。

小倉会長 違うけれども、おもしろいですね。

土屋委員 詳細にわかりますよね。

小倉会長 うん。小金井の市内の詳細な地質状態図がわかって、おもしろいと思うんですけれども。それができると、この位置だとかこういうことって、大体、予測みたいなのがつくようになりますよね。そういう意味で、データの蓄積が、今まで、随分、続いていますので、解析して今後の予測といたしますか、そういうことに活用するということができ

ば、こういう作業が有効なものになっていくと思いますので、もう少しデータの蓄積が重要かと思います。

よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

次は予定、ボーリングデータのことで、5番目がその他ということで、事務局のほう、何かございますでしょうか。

中澤主任 いえ、特にございません。

小倉会長 そうですか。

山田副会長 これは何ですか。

中澤主任 お配りしたのが環境報告書です。こちらのほう、市の環境審議会のほうの審議を経まして、今月、作成したものでございます。地下水保全会議の皆様におかれましても、参考資料という形で、本日、お配りさせていただきました。

小倉会長 どうぞ。

碓井係長 サンワコンさん、何かありますか。大丈夫ですか。

サンワコン いや、特にありません。

小倉会長 それでは、議題は以上で、3番、次回の日程があるんですけども、年度が、26年だから、新しくなるか。

中澤主任 年度が変わりまして、従来ですと7月末頃という形でやらせていただいていますので、7月ということで。

小倉会長 7月のどこかで、また、日程調整をお願いします。

山田副会長 ちょっと1つ、よろしいですか。

ここの下水道の方にいろいろヒアリングをして、下水道のほうも道路の歩道と車道のところの浸透性の舗装を随分やっているそうなので、そういったデータも含めて、一度、浸透ますだけじゃなくて、今の建物以外も浸透事業が進んでいるようなので、そこも少し、どういう形で整理したらいいのか、よくわかりませんが、現状、どうなっているのかというのを見たほうが良いような気がしているんですけども。

小倉会長 下水道のほうで調査ありますよね、浸透ますだけではなくて、浸透孔というか、管みたいなものが何メートルとか。

山田副会長 道路排水はかなり浸透式に、実験的にやっているんだということ

随分聞いていまして。浸透性の舗装もそうだろうし。

石原課長 道路にも浸透ますをつけるという事業を、最近、大分やっていますので。

山田副会長 やられているみたいですよ。

石原課長 はい。

山田副会長 その辺がかなりここで順調にいくのであれば、また随分稼げると思うんです。

小倉会長 そんなデータがもしあれば、浸透ますだけではなくて、浸透の道路なり、側溝なり、どういう形で有効に雨を浸透させているかという実態、多分、調べてありますよね。それがあつたら、そのデータを見せてほしいということで。

よろしいですか。大体、1時間で終わりましたが。

また、次回は7月ごろということで、また日程調整をしていただくということでお願いします。

本日、終了ということで、どうもありがとうございました。

— 了 —